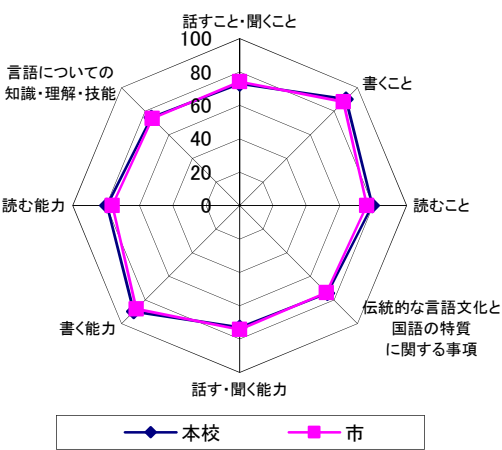


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.0	74.2	68.8
	書くこと	90.0	88.0	73.8
	読むこと	79.5	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.3	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	73.0	74.2	68.8
	書く能力	89.8	87.5	73.8
	読む能力	79.5	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	74.7	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

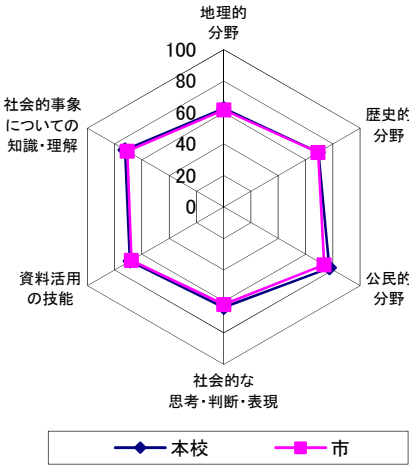
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○質問に対し、根拠を明確に答える問いの正答率は市平均より5ポイント高い。 ●話の内容や、話し方の工夫を聞き取る問題の正答率が低い。	・様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れ、相手や場面を意識した話し方、聞き方ができるよう授業展開を行う。特に、相手の話の内容や話し方を意識させるため、メモの取り方や、要点の捉え方を、短いスピーチから徐々に取り組めるよう工夫した授業を行う。授業の中で、聞き取りテストを定期的の実施しているが、今後も継続していく。
書くこと	・宇都宮市よりやや高い正答率である。 ○すべての問いに85%以上の高い正答率で、市の平均も上回っている。特に、立場を明確にした文章を書く問いでは、95%近い正答率であった。 ●各問いに無回答の生徒が4%程度いる。	・書くことに抵抗がある生徒を減らしていくため、書く機会を増やしていく。少ない分量の文章を書くことから訓練し、長文がしっかりと書ける力を育成する。また、構成メモ等で段落構成を意識させたあと、文章を書かせていく。読むことの授業とも結びつけて、文章の構成を意識させていく。
読むこと	・宇都宮市より高い正答率である。 ○文章の構成や展開を問う問題での正答率が高い。また、登場人物の心情を捉える問いでは、正答率が9割以上と高い。 ●文学的文章の表現の特徴をとらえる問題の正答率は67%であった。	・文章の表現や描写に注目させ、その効果や作者のねらいなどを考えさせて読ませる。書くことの授業とも関連させ、豊かな描写を意識させ表現させる。また、読み取るための基礎となる語彙力を高めさせるために、辞書の活用を習慣化させていきたい。人物の心情を読み取る際に、裏付けとなる、言葉や行動などのポイントを明確に指導することでさらなる力の育成を目指す。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・宇都宮市よりやや高い正答率である。 ○漢字の読み書きや、対義語類義語に関する出題は、各問いとも高い正答率であった。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す出題の正答率が5割を切っている。また、古典の文章の内容を読み取る問いに対する正答率も36%低い。	・授業の中で漢字の小テストを定期的の実施したり、漢字を学習するための時間を意識的に増やしたりしていることが成果を上げているので、今後も継続していく。古典に抵抗のある生徒には、基礎的な力をつけるため、音読を重視したり、重要な語句の意味をしっかりと覚えさせたりする。また、主語を確認したり、作者の思いを捉えるための表現に着目させたりし、内容の理解に結びつけたいく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.5	61.7	54.6
	歴史的分野	69.4	69.2	59.6
	公民的分野	77.4	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.8	61.9	51.9
	資料活用 の技能	68.8	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	72.4	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

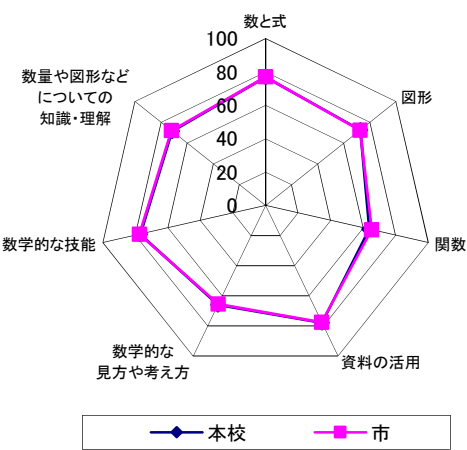
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	・全体としては宇都宮市と同等の正答率である。 ○日本の諸地域の内容は、京都市に関する問い以外はほとんど宇都宮市の平均以上の正答率である。 ●世界の諸地域の内容については、北アメリカ州の地形以外はほとんどが宇都宮市の平均よりも低い正答率である。 ●身近な地域の調査の内容において、地形図を読み取る問いの正答率が宇都宮市よりも低い。	・グローバルな視点に立って、世界に見られる社会的事象を気候や地形、人々の生活や産業の営みとの関連から考察する機会を多くもつことが大切だと考える。また、自分たちの生活とのかかわりについても考えさせる必要がある。その際、多くの資料からその根拠を示し、根拠にもとづいて考察し、論じるよう工夫していく必要がある。
歴史的分野	・全体としては宇都宮市と同等の正答率である。 ○古代、中世、近世、近代ともに、知識・理解を問う問いや資料の読み取りについては、宇都宮市よりも高い正答率である。 ●古代、中世、近世、近代ともに思考・判断の問いや資料から読み取ったことを根拠に判断する、表現する問いが宇都宮市の平均よりも低い正答率である。	・歴史的に起こった事象の理解のみに終わることなく、その事象の原因、もたらした結果や影響について考察し、評論する力を養っていく必要がある。ランキングや話し合い活動、討論など機会をとらえて計画的に組み込んでいく必要があると考える。その際、多くの資料からその根拠を示し、根拠にもとづいて考察し、論じるよう工夫していく必要がある。
公民的分野	○全体としては宇都宮市の平均よりも高い正答率である。 ○ほとんどの問いにおいて宇都宮市の平均を上回ることができた。とくに人権に関する内容、公共の福祉、裁判のしくみ、地方自治については大きく上回ることができた。 ●憲法改正と議院内閣制に関する問いについて、宇都宮市の平均よりも低い正答率である。	・主権者教育を充実させる必要がある。そのためにも、新聞資料等をふんだんに用いて、自分たちの身近なところで政治に興味・関心を抱くよう工夫することが大切である。そして、政治のしくみを理解させた上で、主権者としてどうあるべきかを判断させる機会を計画的に設ける必要がある。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.9	77.1	71.0
	図形	72.8	72.4	59.3
	関数	63.7	65.2	51.0
	資料の活用	77.9	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	65.9	65.5	48.8
	数学的な技能	77.0	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	71.4	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

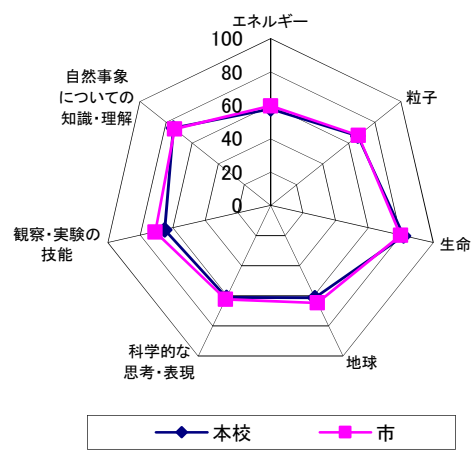
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市と同等の正答率である。 ○乗法公式を使う因数分解は5ポイント弱、分母の有理化を含む√計算が3ポイント弱、解の公式を使った2次方程式を解くことが5ポイント市の正答率を上回った。 ●負の数の和の計算で4ポイント、同類項のまとめの計算で5ポイント弱、市の正答率を下回った。	基礎的な計算力はかなり身につけてきている。今後は能力に応じた授業形態(習熟度別)の工夫が必要であると思われる。
図形	・宇都宮市と同等の正答率である。 ○相似な図形の性質を使って辺の長さを求めることが4ポイント上回った。 ●角柱の直線や平面の位置関係について6ポイント市の正答率を下回った。	知識が欠けている(忘れている)部分があり、反復し定着を計ることが必要である。また演習問題を解くことで確実に理解が深まっており、今後も伸ばしていきたい。
関数	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○ホチキスの使用回数を求める方法を説明することは市の正答率を5ポイント弱上回った。 ●文章問題を読み取り、xとyの関係を表すグラフの読み取りが7ポイント市の正答率を下回った。	基礎的な事項は把握しているものの、文章表現から必要な情報を読み取り、問題を解決することが全般に苦手であり、今後の課題になると思われる。時間的な制約はあるが、文章記述問題を授業で多く取り上げ、解決をはかりたい。
資料の活用	・宇都宮市と同等の正答率である。 ○最頻値の理解を問う問題で9ポイント市の正答率を上回った。 ●度数分布表から相対度数を求める問題で4ポイント市の正答率を下回った。	図形分野と同様に知識が欠けている(忘れている)部分があり、反復し定着を計ることが必要である。一方で授業で復習し定着を図ったものについては理解が深まっているので、定期的な復習、反復が必要である。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.9	59.7	57.9
	粒子	66.9	67.4	59.8
	生命	81.8	79.9	73.5
	地球	61.2	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	61.0	62.3	56.3
	観察・実験の技能	65.1	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	74.6	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

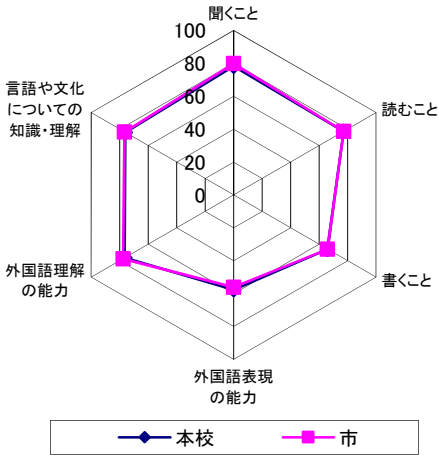
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○音の伝わり方については5ポイント、磁力線については7ポイント、運動エネルギーの大きさを表すグラフについて1ポイント強市の正答率を上回った。 ●計算問題や作図で解答する問題について、7ポイント以上市の正答率を下回った。	・計算問題や作図の問題について、十分に定着がはかれていない。小単元のまとめなどに、計算問題や作図の問題について時間を取り、定着をはかっていきたい。
粒子	・宇都宮市とほぼ同等の正答率である。 ○酸・アルカリとイオンの問題については、すべてにおいて市の正答率を上回っていた。特に、中和のしくみについては、10ポイント弱上回った。 ●物質の成り立ちの問題については、すべてにおいて市の正答率を下回っていた。特に、二酸化炭素を検出する方法については、9ポイント下回った。	・2年生の化学変化の単元では、実験から導き出される結果について、考察する時間を十分に確保することで、科学的思考力や実験の技能を高めていきたい。粒子の領域では、目に見えないため、モデルやパソコン教材などを使い、定着をはかっていきたい。
生命	・宇都宮市より少し高い正答率である。 ○生物の成長とふえ方の問題については、すべてにおいて市の正答率を上回っていた。消化のしくみについては、9ポイント強上回った。 ●植物の分類について、胚珠の様子で分類や合弁花に分類される植物の特徴について2ポイント程度市の正答率より、下回った。	・生命の領域については、ある程度定着がはかられている。授業の中でも、基本的な用語の確認や基本問題などを適宜実施していきたい。
地球	・宇都宮市より低い正答率である。 ○低気圧付近の風の吹き方や寒冷前線通過時の天気の変化について理解しているが、市の正答率より、わずかだが上回った。 ●天気記号の作図では、10ポイント以上市の正答率より下回っていた。火山の問題では、火成岩の性質で市の正答率より3ポイント程度下回った。	・1年生の火山などは、学習してから時間がたっていることや覚えることが多いため、十分に身についていない。3年生の授業の中で、関連する学習内容のときに、復習する時間を取るなど工夫して行っていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	78.2	79.9	75.7
	読むこと	77.3	77.3	72.8
	書くこと	66.0	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	57.6	56.1	58.8
	外国語理解の能力	76.4	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	76.0	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・宇都宮市より若干低い正答率である。 ○英文の要点の内容を聞き、質問に答える問題においては、正答率が100%であった。また、絵を見ながら適切な文を聞き取る問題においても、97%という高い正答率であった。 ●昨年度と同様、対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題においては、市より低い正答率であった。	・授業中のインタラクションの中で、簡単な質問を聞いて答える活動や、英語の使用量を増やし、インプット強化に努めていきたい。また、まとまりのある対話を聞いて、適切な答えを選択する活動も定期テストなどで取り入れていきたい。
読むこと	・宇都宮市と同じ正答率である。 ○特に語形・語法を理解する問題(SV(call)OC)における正答率は、94%であった。 ●英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じる問題においては、市と同様、60%程度の正答率であった。	・ある程度のまとまりのある長文でも、資料の情報や条件がある長文を読む機会があまりなかったもので、今後は、対話文だけでなく、説明文などにも触れ、読む活動を多く取り入れ、慣れ親しむ訓練をしていきたい。
書くこと	・宇都宮市と同じ正答率である。 ○並べかえによる語順の問題においては、高い正答率であった。また、まとまりのある英文(3文以上)を書く問題においても、市より高い正答率であった。 ●場面に応じて書く英作文や、対話の流れにそって書く英作文の正答率が市と同様20~30%台であった。	・授業の中でも、場面に応じて書く活動や、対話の流れにそって書く活動を多く取り入れ、意欲的に取り組めるよう支援していきたい。また、書く活動を毎時間取り入れ、書くことへの抵抗感もなく工夫をしていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成 (家庭学習の充実と継続を求めて)	・自主学習ノートの運用 毎日1ページ以上を目安とした自主学習ノートの活用を行う。 ・学芸委員による生徒目線での働きかけ 学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、定期的に「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。	「ふだん学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いに対して30分以下の人数が全学年とも市の平均よりも少なく、学年が上がるにしたがってその傾向が強くてている。これは自主学習ノートの活用効果がでていると思われる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎的事項の理解を深めることはもちろん、それを土台により発展的な内容へ取り組んでいこうとする意欲の醸成とその環境づくりを考え、準備していくことが大切である。具体的には自主学習ノートの質の向上があげられる。また将来を見通した学習および進路指導の充実を図っていくことが肝要である。
